

◎年次別 乳児の死因分類と順位(第1位～第5位)及び死亡率◎

(1955年・昭和30～2013年・平成25年)

年次	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率
1955年(昭和30年)	新生児固有	1620	肺炎及び	943.3	胃腸炎	336.3				
1960年(昭和35年)	新生児固有	1076	肺炎及び	856.8	胃腸炎	234.9				
1965年(昭和40年)	新生児固有	694.6	肺炎及び	354.8	先天異常	197.9				
1970年(昭和45年)	先天異常	202.4	出生時損傷等	194.2	肺炎及び	170.4	詳細不明の未熟児	131.7	新生児の異常	109
1975年(昭和50年)	先天異常	214.2	出生時損傷等	174.3	肺炎及び	90.5	詳細不明の未熟児	76	新生児の異常	66
1980年(昭和55年)	出産時外傷等	246.4	先天異常	198.6	不慮の事故及び	41.8	詳細不明の未熟児	41.7	肺炎及び	37.3
1985年(昭和60年)	先天異常	168.6	出産時外傷等	168.1	不慮の事故及び	31.5	肺炎及び	18.7	心疾患	16.3
1990年(平成2年)	先天異常	166	出産時外傷等	97	不慮の事故及び	28.3	心疾患	14.7	敗血症	13.8
1993年(平成5年)	先天異常	153.8	出産時外傷等	78.6	不慮の事故及び	23.7	心疾患	18.4	敗血症	16.2
1995年(平成7年)	先天奇形	150.5	周産期に	64.4	乳幼児	44.3	不慮の事故	27.7	胎児及び新生児	20.3
1998年(平成10年)	先天奇形	131.7	周産期に	56	乳幼児	29.9	不慮の事故	22.4	胎児及び新生児	16.6
2000年(平成12年)	先天奇形	116.3	周産期に	50.6	乳幼児	26.6	不慮の事故	18.2	胎児及び新生児	17.4
2003年(平成15年)	先天奇形	108.9	周産期に	43.2	乳幼児	19.4	胎児及び新生児	16.5	不慮の事故	13.5
2005年(平成17年)	先天奇形	96.5	周産期に	39	乳幼児、不慮の事故	16.4			胎児及び新生児	15
2007年(平成19年)	先天奇形	96	周産期に	34.5	乳幼児	13.5	不慮の事故	11.7	胎児及び新生児	11.1
2009年(平成21年)	先天奇形	83.8	周産期に	33.7	乳幼児	13.6	不慮の事故	11.6	胎児及び新生児	9.3
2011年(平成23年)	先天奇形	82	周産期に	30.6	不慮の事故	18.9	乳幼児	12.6	胎児及び新生児	8.1
2013年(平成25年)	先天奇形	78.8	周産期に	29.9	乳幼児	12	不慮の事故	8.6	胎児及び新生児	7.4

参照資料: e-stat 人口動態統計 第6・16表 年次別にみた乳児・新生児の死因順位に基づいて作成

:: 大分県・全国 第34表 年次別乳児の死因順位、死亡率に基づいて作

・死亡率(人口10万人対)

・新生児(生後4週間・出生から満28日未満までの期間)

・乳児(出生から満1歳未満までの期間)

・新生児固有→新生児固有の疾患

・肺炎及び→肺炎及び気管支炎

・不慮の事故及び→不慮の事故及び有害作用

・敗血症→敗血症(新生児敗血症を含む)

・先天奇形→先天奇形、変形及び染色体異常

・周産期に→周産期に特異的な呼吸障害等

・乳幼児→乳幼児突然死候群

・胎児及び新生児→胎児及び新生児の出血性障害等

